

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成26年10月24日
タイトル	ぜんぶ手で稲刈りしたよ！！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成26年10月21日（火）福山市立駅家西小学校5年生62名が、福山市駅家町の水土里ネット福山の組合員こだまあつしの児玉敦之さんのほ場、約600㎡で農業体験をしました。

今年5月から、籾蒔き、育苗、田植えを全て昔ながらの手作業で体験した子ども達、立派に成長した稲を収穫することになり、今回も全て手刈りをします。子ども達にとっては、初めての稲刈りとなり、町内会をはじめ地域の方の協力が欠かせないものとなっています。

子ども達は、学校からほ場まで約2kmを歩いて移動しました。田んぼへ到着すると、駅家西学区の町内会や地域の方がすでに準備を整えて待っていただきました。



元気に歩いてやってきました！



稲刈りの準備万端です！

まず、駅家西学区町内連合会長の高本さんから「籾蒔きから5ヶ月と10日が過ぎ稲刈りをする事ができます」と挨拶されました。続いて、松岡校長先生から「今日の稲刈りでザクツという手応えを感じてほしい、稲穂をけっして踏まないように、一粒のお米も大事にしましょう」と挨拶されました。子ども達は、大きな声で「よろしくお願いします」と挨拶をしました。

このほ場を管理しておられる児玉敦之さんより、鎌の持ち方や刈り方を教えてもらい、いよいよ稲刈りです。子ども達は、クラスごとに2チームに分かれ、1チームは稲刈り、もう1チームは刈った稲を束ねる係です。田んぼの真ん中を地域の方が刈ってくださり、東側を1組、西側を2組と自分達が田植えをした所を刈っていきます。



鎌の使い方を教えてもらいます



東西に分かれて稲刈りです！

天候の影響で、田んぼがぬかるんでいるところがあり、子ども達は歩くのも大変な様子でした。

地域の方に教えてもらいながら、恐る恐る鎌を使って、最初は見ているのが怖かったのですが、すぐに慣れて校長先生のおっしゃった「ザクツという手応え」を感じているようでした。



最初はおぼつかない手つきでしたが、稲刈りの
恰好も様になってきました！
一生懸命、稲を束ねています！
子どもも地域の方も校長先生も一緒になり
ドンドン稲刈りしていきます。
汗を拭う子どもの姿が印象的でした。



刈った稲をどんどん重ねていき、子ども達が地域の方に教わりながら束ねてはざ掛けにしていきます。最初は、
難しそうに束ねていましたが、段々慣れて上手にできるようになりました。

はざ掛けも終わりに近づくと「お米一粒も無駄にはいけません」とみんなで落穂拾いをしました。



泥だらけになったよー！



終わる頃には夕日がさしてきて、子どもも
大人も達成感でいっぱいです！
山間に「こだま」するほどの元気一杯のあ
いさつを聞いて、地域の方も思わず笑顔に
なりました。

最後に子ども達の代表が「大変貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。来年の5年生にもこの
ような体験をさせてあげたいのでよろしくお願いします」と挨拶があり、子ども達みんなで「ありがとうございました」と
元気にお礼をいいました。とても大きな声で、向かいの山に「こだま」しました。元気のいい子ども達の
姿を見て、地域の方々も大変喜んでおられました。

このほ場で収穫した新米は、駅家西学区町内連合会で子ども達に振舞われる予定です。